

[illegible]

支那海の警備
艦ローゼンテック號は本國に向つ

十七日午前十一時總督を官邸に訪
 暁乞の辭を述べたり

ひにて鹿兒島へ到着の上は更に盛大なる非儀營まるべし

云ふにありされば一般の意見として
は戦争終熄後迄此種の問題の解決を

▲青蛙會盛況
蛙會は創立日續に浸きに拘らず今や會員三十名

唯吉氏は四十五日間の豫定を以て
主羅北道内各地方に於て勸諭貯蓄奨

地方費支出を計上したるが此れに
りて年々地方費より一定の支出を
窓

天地は又こんな風に候
外の巨木夜半の騒かな



博義王殿下御輕快

御見舞電報日々數十通に達す
伏見宮博義王殿下の御病氣に就き、御見舞電報日々數十通に達す。殿下は御病氣に就き、御見舞電報日々數十通に達す。殿下は御病氣に就き、御見舞電報日々數十通に達す。

會葬者涙に咽ぶ

阿部中尉の合同葬儀
阿部中尉の合同葬儀。阿部中尉の合同葬儀。阿部中尉の合同葬儀。阿部中尉の合同葬儀。阿部中尉の合同葬儀。

波瀾に富んだ生涯

世に知られざる故金王均氏
世に知られざる故金王均氏。世に知られざる故金王均氏。世に知られざる故金王均氏。世に知られざる故金王均氏。

波瀾に富んだ生涯

世に知られざる故金王均氏
世に知られざる故金王均氏。世に知られざる故金王均氏。世に知られざる故金王均氏。世に知られざる故金王均氏。

鴨江解氷

船の交通を開始
鴨江の氷は、船の交通を開始。鴨江の氷は、船の交通を開始。鴨江の氷は、船の交通を開始。鴨江の氷は、船の交通を開始。

邦語に熟達せる

鮮人醫師
鮮人醫師。鮮人醫師。鮮人醫師。鮮人醫師。鮮人醫師。

十四回の放火

證據不十分で無罪
證據不十分で無罪。證據不十分で無罪。證據不十分で無罪。證據不十分で無罪。

狂犬に咬まれる

狂犬に咬まれる。狂犬に咬まれる。狂犬に咬まれる。狂犬に咬まれる。狂犬に咬まれる。

斯くの如き理想

斯くの如き理想。斯くの如き理想。斯くの如き理想。斯くの如き理想。斯くの如き理想。

軍艦生活

大禮服も夏服も
大禮服も夏服も。大禮服も夏服も。大禮服も夏服も。大禮服も夏服も。

上海に誘き出し

上海に誘き出し。上海に誘き出し。上海に誘き出し。上海に誘き出し。上海に誘き出し。

衣袋の中へ外套

衣袋の中へ外套。衣袋の中へ外套。衣袋の中へ外套。衣袋の中へ外套。衣袋の中へ外套。

ハンモックの夢

ハンモックの夢。ハンモックの夢。ハンモックの夢。ハンモックの夢。ハンモックの夢。

十一時に電燈が

十一時に電燈が。十一時に電燈が。十一時に電燈が。十一時に電燈が。十一時に電燈が。

移轉廣告

今般都合に依り左記へ移轉仕候
今般都合に依り左記へ移轉仕候。今般都合に依り左記へ移轉仕候。今般都合に依り左記へ移轉仕候。

朝鮮銀行

朝鮮銀行。朝鮮銀行。朝鮮銀行。朝鮮銀行。朝鮮銀行。

最新鉄剤

最新鉄剤。最新鉄剤。最新鉄剤。最新鉄剤。最新鉄剤。

皮膚病新劑

皮膚病新劑。皮膚病新劑。皮膚病新劑。皮膚病新劑。皮膚病新劑。

小兒科専門

小兒科専門。小兒科専門。小兒科専門。小兒科専門。小兒科専門。

大同生命保険株式會社

大同生命保険株式會社。大同生命保険株式會社。大同生命保険株式會社。大同生命保険株式會社。

若槻醫院

若槻醫院。若槻醫院。若槻醫院。若槻醫院。若槻醫院。

梅毒症新劑

梅毒症新劑。梅毒症新劑。梅毒症新劑。梅毒症新劑。梅毒症新劑。

皮膚病新劑

皮膚病新劑。皮膚病新劑。皮膚病新劑。皮膚病新劑。皮膚病新劑。

小兒科専門

小兒科専門。小兒科専門。小兒科専門。小兒科専門。小兒科専門。

白毛漆君の代

白毛漆君の代。白毛漆君の代。白毛漆君の代。白毛漆君の代。白毛漆君の代。

村上病院

村上病院。村上病院。村上病院。村上病院。村上病院。

二男長生病氣

二男長生病氣。二男長生病氣。二男長生病氣。二男長生病氣。二男長生病氣。

土井芳輔

土井芳輔。土井芳輔。土井芳輔。土井芳輔。土井芳輔。

若槻醫院

若槻醫院。若槻醫院。若槻醫院。若槻醫院。若槻醫院。

京城田舎

頃者、北京政府其帝政計畫を取消の政府として、極めて強大にして、すこを公宣したり、即ち是れ南方各地獨立を囑ふるもの、皆帝政反對と和議を以て其の目的と爲すもの、之に依りて反對者の口實を得て、之のなるものなり、帝政取消が此度の混亂を取鎮むる爲めに、何程の効を果ある可きか微疑間なりと雖も、北京政府其の力を以て國內を壓服する能はざるを悟りたるだけでは明白なり。

然るに、北京政府の實力を具へざるを知らざるに拘はらるるは、第一次革命第二次革命以後、久しく無事なりしが却て異敵にして今日頃國內大動亂を見るは寧ろ當然なり。従て此まにに放置するも事を起すもの、其氣力盡き且人心亂を厭ふに至れば、自然鎮定すべきは智者を待ちて而して後に知るを要せざれども、其勢の未だ衰へざるに當りて、人格の尙尙なる點に於ては、果敢とする人なれども、果敢銷断斷し國歩艱難に處する政治家として、是に適當の是舉に民主黨に依りて自出く勝利の月桂冠を戴得たるは其和黨が我が國の政友、如く二十餘年間に政權を握りて、氏が三たび大統領たるの野望を共和黨より分離し別に進歩黨となし、

繼續に加増するもの甚だ多く、他人
若し南方革命派に同情を寄するあれ
ば、則ち張路明として之を視るの姿
あり、即ち是れをその形に就て、
○米國には四年目毎に大統領の選舉
あり、一度で其の選舉終れば大統領
のグライアン氏がウ氏の軍備擴張
反對して中原の鹿を爭ふ可く出

前者は排義の思潮に動かされたる餓
あるこそ、後者は困窮の久しきに
馴れて時勢の變化を顧みざるの情な
しとせす。

八、威南の浦輪
養氣、兵法、武藝

事に至りては最も大志に劣るゝ
多かりしに似たり、而して是般
りし如し。元略何故に故に暴進
なき。

今日支那動亂の原因を論ずるもの多しは其を袁氏の皇帝ならむとして國民の反感を買へるに歸す、成程此度の動亂を起すものは、皆軍政反對共和維護を以て其聲を上げたれども假りに袁大總統にして帝政を企畫する已なからしめたれば如何、支那人民に共和自治の能力なきは甚だ明白なり、而して北京政府の財政窮乏兵力微弱、殆ど國內を統一するの力なきなり、由來支那は亂邦なり、三年五稔精にありとは云ひ難しと雖も、巧や、何故に地形を利用せざりや、何故に退くに、左右に伏を設くるを意りしや大工匠房をして之をせしむれば又情むらくは奸男子軍知らずと云ふならん、尙孫子の地合には有述べたる外、幾多の掘けたる部分の全文を左に記さば、尙孫子して靜なるは其險を以てなり、遠くして戰を挑むは人の力を欲するなり、其居る所易なる

隣邦時局の觀察(一)
布施 知足
喧ましかつた帝政問題も兎に角一生
づ結局がついた尤も後始末が申々を
易くはあるまいが取消の申合で帝政
其ものは先々死んで仕舞つたわけ
である帝政運動が表面の勢力となつて
て現れたのは誰も知つてゐる通り
昨年夏、初め梁士詒一派の安會

奴兒哈赤を氣死せしめたこと云ふ來歴のある將軍である、當時期は滿洲國治めるのに邊疆に俗に打獵といふ

來るなり、散して條に達るは樵探
なり、少にして往來するは營軍ナ
り、陸軍うして備を益すは進むナ

辭強うして進み驅るは退くなり、
車先づ出で、其の側に居るは陳す
なり、約無くして利を請ふは誤り
なり、奔走して兵車を陳するは倒
るなり、半ば進み半ばは退く
誘ふなり、杖つて立つは飢ゆる
なり、汲んで先づ飲むは渴する
なり、利を見て進まざるは勢するなり、口
の集まるは虚なり、夜呼ばはるは
るなり、軍據るは將を重ぜざ
るなり、旌旗動くは驚るなり、夷恐

あるから入鹿の總兵は六萬人で倍々之を率ゐて云々云ふ風に觀望したて宛したと云ふ事である、處で此黨之を率ゐて云々云ふ風に觀望したて宛したと云ふ事は、先づ其の甲の兵と云ふが中に軍刀を持つて先鋒とする際甲は又鐵甲鐵鎧のごとし云へば先年の革命に出るられるかと云へば先年の革命に出た鐵鎧の甲を着る譯では無い矢張り木綿か襦子で長袴縞のやうなものを作りに長一寸二三分幅一寸ばかりの薄鐵へた鐵片を鍔で隨分なく取付けけるそれを著た兵が槍刀を以て先に進む、その後から輕甲の兵と云ふ大體は之を恨み皆つて遂に疾を成し

主意の一つである、日本で維新の時、當時たる文德閣政府に迷惑を懸けた者が王政復古後の功臣と仰がれて明治の時代に狩獵りがよかつたと同じ

處へ出て來たのは臺臺嶺で流石は名
 將だ！其先に敵の主力は馬にある
 事を看破した滿洲兵を破るには馬だ

かく取込かちにて御無沙汰致し候
 扱て二月中旬旬敵に著き當分帶有昨
 日は下院傍總に出かけ候。恰度四位
 御の臨陣軍事費につき内閣停止投票

敵々責するは露むなり、敵々問するは困しむなり、先づ暴にして後に其の衆を畏るゝは精しからざるの至なり、果して要するは本息せんと欲しきものあり、一々郵驛に受け寄へ

するなり、兵驚りて相避、久しうして合せ、又相去らずんば、必ず誰か之を察せよと。文中、梟の起つは伏なりとの事は、恰も大江匡房が斯の義家に教へしところにて、匡房も或は孫子を探ししものなる。我輩之により、後三年の役に於て、飛雁行ふ亂るを見て危きを免れたるは人の皆知るさとの如し、書を讀みては、茶碗に落ちざるを注意すべく、又一言半句も輕忽に看過すべからざるなり（此項略）

して行く様、宛るで會社の集會にて東役が株主に語して居る様を體裁に見受けられ候。然かも應答は最も敬語にて交換され居り候。

日 報 歌 壇

○キルグ草歌 永岡 説美

別れ路の一本すすきほろくどす
すり泣く見ゆ我がたま痛む
別れ路の畔の枯草する／＼とキル
ク草履の踏み止めもなし

破天荒の記 大賣出

「一本も空籤なし」

景品附區域 朝鮮全道及安東縣

景品附箱數 壹萬七千箱限り

景品附期間 大正五年 自三月十日 至五月三十日
但し期間中ミ雖賣出箱數に達したる時は締切る

景品引換券 サツホロ、アサヒ

(大城四打入 小城八打入) 送箱に付並校郵便

景品目録

◆一等	等金時計 (十八金)	金八十圓	拾本	金八百圓
◆二等	等勸業債券	金五十圓	拾本	金五百圓
◆三等	等銀時計	金廿五圓	拾本	金二百五十圓
◆四等	等勸業債券	金十圓	百本	金一千圓
◆五等	等三越吳服店切手	金五圓	拾本	金五百圓
◆六等	等瓦斯塞地	金一圓	千本	金一千圓
◆七等	等モスリン風呂敷	金五十錢	貳千	金一千圓
◆八等	等タオル	金十錢	六千	金六百圓
◆九等	等手拭又は郵便切手	金十錢	七千七百六十錢	金七百六十圓

合計壹萬七千點 總六千六百十二圓六十錢

抽籤方法 來七月一日 京城商業會議所 午前十時

景品引換 當社京城出張所

景品引換期限 八月三十一日迄

御注意 麥酒は京城市内及各地販賣店に有之候間景品券は御購求の際其販賣店より直接御受取被下度願上候

最好機會なり

今か御注文を賜る

大日本麥酒株式會社 京城出張所

□鮮人として中流以上の生活□

となつた現今の生徒は百生六十一名、
學生十八名であつて百生教育は普通
學講習の外に専ら按摩を習得せしめ
て居るが古來朝鮮には按摩と云ふも
のが全く無かつた爲按摩術を習得し
ても果して夫れを以て生活し得べき
や否やと云ふ事が

の内、地人一名を除いて鮮人七名、
在學中、市内へ按摩の實習に出て取
た賃金は皆に三百五十四元九十七錢、
連し其の概高に出つて之れを分配
した最も多いのは三十七元十錢で
つた彼等は何れを以て衣服帽子靴
を新調し三年間學科技術を教へて世
つた上に

總督府醫院優等卒業

だ前て
國立港に歸つたつた體度
圖には一層驚かされた
であつた。殊に「いかけまくもあや
かしこき……」といふやうな文章
あつたから果して當人に解つたら
かと思ふが不審相な面色をするこ
と金福さんなら仕度言葉でも解り
以前には朝鮮婦人は到底惡態仕事
に駄目だらうと言はれて居たが

甘有 李鳳 望
府内淑明女 聖校のあたり だんらん志 望して来る
くて中には 卒業生が

老將軍

● 濟生院盲啞部

〔右〕盲生の按摩實習
〔左〕啞生の發音練習



詐欺事件判決

敵軍を打ち破り、大勝に於て一擧に支那の北洋海軍を全滅せしめ、大功勞の内に中将の榮典亦與つて力あるといはれて居る

長丁で日露戰役の後、第師團の參謀として川村大將の率ゐる鴨綠江に參加し、梅澤旅團と呼應して大戦をやつたものだ

九龍要港、香港、澳門に於て、去年十二月生れ位の鮮人、女兒を遺棄し、ありこの屈出に接し、鍾路署より、警官出張、檢視せしが、同家、妻は襁褓に子なき爲め、賈ひ受けて養育したるこの希望に依り、該嬰兒は同人に引渡したること

孤兒救濟會總會 英總領事館

猿にあて残り四圓で生活し

何うも面白くない、此の邊には大に呼吸が要するといふ事であつた、生徒は主に病院へ町の貧民の家に出入りして折れるといふ事だ、第一みな溫和しいには溫和しいが、

國恥するやうな事をと

學ではありましたが、昨年九月東京試験を受けて見ますと幸ひにも通しましたので

◇豫て朝鮮語に

質ですから、絶対に興味を持つて居

[illegible]

三浦の「所」の看

す。此外に好まぬものは有程と、願ひますが難儀
娘は伯父様を下獄として、お出でなされたのであ
るを諷んで居ます」と、給與張しい態度に人々
なつかしく笑み合ふのおどろ。

「さうだ。御利益かと思ひます、私は過
りた下宿の一階に」

醫士になして居る時分
他所から或る事件を依頼されまし
た。その事件が如何なるものであつたらうかと

雪 雁 一 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

▲山葉オメガン 直輸入
▲鈴木タワイルガシム 勢田機器店
▲古城本町二丁目

●古本買入 ▲御膳堂上 京坂本三丁目
▲地方近邊 森田文定堂書局

●古城本町一丁目(開通商店) 304

▲毛皮ナギシ専門
▲報知町電話送付染仕方地方発送の
京阪三合町電話二〇〇和泉商行
電取之也。

明治町
岡村介石
二丁目

市川市星支所 京話三八七
電話三八七

實屋場向新築土地家屋倉庫

藥學講習所 募集
 受附三月十一日迄延有期此際至急申
 込規則書一冊並有藥店在
 長橋通長薰學校内に於て夜間教授
 金銀三製作
 政記記念金銀鮮物產共進
 會に於て弊店御報告共
 意匠彫刻仕上等佳良
 たる物製造品中進仕
 詞を唱はり且つ閑院
 宮殿下御買上げ
 並に金銀銀牌受
 全部空氣輪揃 477
 金銀三製作

●ほねつぎうちみくじき

藥學講習所 募集
 受附三月十一日迄延有期此際至急申
 込規則書一冊並有藥店在
 長橋通長薰學校内に於て夜間教授
 金銀三製作
 政記記念金銀鮮物產共進
 會に於て弊店御報告共
 意匠彫刻仕上等佳良
 たる物製造品中進仕
 詞を唱はり且つ閑院
 宮殿下御買上げ
 並に金銀銀牌受
 全部空氣輪揃 477
 金銀三製作

[illegible]

と思つたのか、馬を牽き出して行つて其處に繫かれた主人の鞍馬を牽き出した。而て無言で大手の御門を出て、下馬先から其にうち降り、一瞥で駈け出した。是れを見た岡田長四郎の郎等も、俄かに星振の用意をして、侍候所を走り出した。其處へ眼中を脱れ出て、急ぎ足に此處へ來かつたのが、主人長門守重信の令弟、同藩番五郎、一族坂井下總守の兩人であつた。

「斯く、乗馬に幸け！」
「者」言ひ捨て、急いで大手の門を潜り出た。

心得て二頭の駿馬を牽き出し、一同其處へ戻つた。坂井下總守は忽ち馬に降りながら、

「本家の主人、何者の謁言かは在存也。思ひも當らぬ大坂内應の叛逆の

奉公は、や、是までと思はく、心任に退散せよ。若しまた重代の恩を以て、成もろどもに一命を阻さう存する輩は、疾く我等に届けや」と呼ばりながら、一躍くれて駈け出した。

長門守撫育の恩の厚かつたのか、流石に義を知る者共と見え、誰落延びんとする者なく、二頭の駿馬は砂煙を颯けて疾驅する、一人とし後るゝ者なく、孰れも飛鳥の如く宙を飛んで星崎さして馳せ寄けるであつた。

「やあ後たわ、松ヶ崎、星崎、さも必定、寵戚、思はるゝぞ。は今立歸つて、最後の一夜を満よくせよ淺井が家子輩も、皆一同に長崎に出て、お賀さして馳せ還つた。第一番に旗を出た津川が郎等は

皮膚科
 皮膚病 梅毒病 淋病 膀胱病 生殖器病 生殖器
 機能障礙
 東京明治町
 佐藤醫院
 (電話一七三番)

[illegible]

新學期
小學卒業生
立身成功
中學講義
實力の養成
獎勵學
其他大特典
稲田大學
義錄
講義
大革新
兩講義錄見本
申込次第進呈
電話
七三三
四七三
出版
稲田大學

いちばんよく売れる

異くも絶やす

有名なクレンジング洗粉 日本本店謹製の

クレンジング美身クリーム

素顔の美を増し白粉の附きを好くする品質第一のアレスは日本名物クレンジング美身クリームにして

尊き邊御買上の光榮を忝りせり

七日ツケタラ鏡をどろ色白くなるゲンノ液

今東京で大評判の白美の元染色黒き顔赤き顔日やケおしろい、やケ、アレを防ぎキメをコマカに根本の色白く真の美人美男子に
 全國の藥店小問物化粧品店に販賣し近所に品切の時代金大の郵便切手を送り送品東京和泉橋森ゲンソ液 本通 込本葉占

小瓶 四十錢
 大瓶 八十錢

世界の
 人氣は
 更に愈々

煉香油
 ポマード
 集る

本 尾 商 店
 平 足 支 店
 大 平 支 店

寫眞出眼最彰
寫眞銅版、亞鉛凸版
畫工細密、技術以上、
遠近可傳、誠為美術之冠也。
京成日報社 寫眞製版部

二男長生病氣の
處本日午前七時死
去致候に付乍略儀
紙上を以て御通知
申上候
明治廿九年午後四時三十分途中葬列を廢し若草町普洞宗本山別院に於て葬儀相營み候
大正五年三月二十七日
京城南米倉町二〇五
土井芳輔

[illegible]